
俯く像

新

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俯く像

【著者名】

Z3357B

【作者名】

新

【あらすじ】

話題となっている彫刻だが、その作品の持つ意味を知る者は……?

?

都内某所。とある国立美術館では、近世ヨーロッパによるルネサンス期の彫刻展が開かれていた。この展覧会の目玉と言えば、世界初公開を謳い文句にしている、某有名彫刻家の未発表作品であった。パリにあつた彼のアトリエの奥から発見されたしるもので、これに目を付けた日本の大手テレビ局がプロデューサーとなり、どこよりも早く日本で公開されることが決定した。もちろん、契約に掛かった莫大な費用は、すべて入場料でまかなえるという計算だ。某テレビ局の上層部の者たちは、別に芸術などに興味はなくとも、話題さえあれば面白半分で集まつてくる日本人の性質をよく理解していたのだった。

その読みは、まったくもつて正しかつた。連日のテレビロマーシヤルやイベント化の影響もあり、彫刻展の封切りが行われる日となると、美術館には長蛇の列ができていた。サラリーマン風の男もいれば、主婦と思われる姿の女性もいる。全国津々浦々の老若男女たちが、ただの興味本位で集まつていた。結局、初日の動員数は一万の人を軽く越えた。

一ヶ月が経つてもその勢いは衰えることを知らず、むしろ鰐登りに増えていった。その要因の一つに、リピーターが多いということがアンケート等によつて明らかとなつた。今までの動向を見る限り、この手の美術展に来る客のほとんどは、一度見てしまつともう満足してしまい、再びやって来るなどと、ることはほとんどなかつた。それが、今回に限つてはその逆らしいのだ。つまり、一度見に来た客が、二度目、三度目を見に来る機会が多いということだ。

これは、やはりどう考へても、初公開の彫刻の影響なのだろう。

「俯く像」と名付けられたブロンズ像。一人の男が、両手と両膝を地面に付け、こうべを垂らして下を見つめている。その歪んだ表情は彼の感情をリアルに表現していて、絶望に打ちひしがれる様がひしひしと伝わってくるようだった。劣悪な保管状態で今日まで至ったためか、瞳に使われている青銅が溶けて流れ出してしまっている。これがまるで、涙を流しているようで、芸術知識の皆無な日本人にとっては受けが良かつた。

今日も「俯く像」の周りは人で溢れていた。

ただ一つ、観客たちには不明な点があった。それは、この像に関する説明がフランス語で書かれているため、彼が何のことで絶望をしている像なのか分からぬということだった。

もともとはフランスで公開する予定だつたものを、日本が半ば強引な手口で横取りしたようなものだつたため、正確な日本語訳をしてもらなかつたのだ。一方、日本の主催者側も、どうせそこまで深く知りたがる奴なんていないだろう、ということで、フランス語そのままの解説を紹介しているということだ。

このことは、見る側に自由な解釈を与えるという点で、またもや受けが良かつた。連日、芸術評論家気取りがギャラリーの前で熱弁を振るう光景が見られるようになつた。

ある日のことだった。「俯く像」について、こう解釈をした男がいた。

「この像の男性は、長い間愛し合つていた女性に裏切られたんだな。自分では一生懸命愛していたつもりだったのに、自分の他にも男がいやがつたんだ。所詮、人間なんて裏切んなきや裏切られちまうんだ。そのことに気付いて絶望してる様子を表してるんだと思うぜ、うん」

その男は自嘲氣味に一度笑うと、離婚届をひらひらわせながらその場を去つた。

またある日のことだつた。子供を連れた主婦と思われる女性が言った。

「この男性は、まだ本當は子供なんだと思つた。暴力を振るう父親に怯えて暮らしているうちに、この世にいる全ての人間が信じられなくなつてゐるんだと思つた。そのことについて深く絶望をしているのよ……きっと」

女は、顔中がアザだらけになつた小さな子供を連れ、その場を去つていつた。

またある日のことだつた。詰め襟の学ランを着た男子学生が言った。

「……この人は、世の中の競争に負けて絶望しているんだと思つた。自分は自分であればいいはずなのに、いつの間にかレースに参加させられていて……そんな社会の仕組みに、ほとほと嫌気がさしてゐるんだよ。僕はそう思う」

男子は手に持つていた紙を破り捨てた。彼の受験番号が一ついちぎれていた。

またある日のことだつた。髪の毛を金色に染めた男がぶらぶらとやって来て、いつ言った。

「俺はよおー、じついうの全つ然分かんないんだけどー、俺が思うにー、たぶんー、じつは虚しくなつてんじゃね？ 何していいか分かんなくてよおー、ただ毎日がばーっと過ぎてゆべことが虚しくて嫌なんじやねえの？」

そう言つと男は、近くにあつた展示品のケースをけつ飛ばし去つていつた。

またある日のことだつた。他の者が「俯く像」の自己流解説をするのを聞き、深いため息と共に首を横に振る男性がいた。彼はフランス人留学生で、一時は美術を志していた時期もあつた。連日のようには題に上がるこの美術展に興味を示してやつて来たが、日本人の認知力の低さに目を覆いたくなつていた。

あの彫刻は、本当は俯いたりなんかしていないので。また、絶望をしているという表現も正しくない。

彼は、人混みに隠れそつになつてゐる彫刻の説明文を読んだ。

我、天の国の雲の切れ端より下界を臨む。
そして我が目を疑つた。

下界の者たちは、皆、何故あれほどまで悩みを抱えているのだろうか。

私には理解ができない。

この天上とはまるで異なり、誰の顔にも苦惱が浮かんでゐるではないか。

嗚呼、何と嘆かわしいことであるうか……。

そして、それを周りの人たちに教えようとして、どうせ無駄なことだと諦めた。

そのときの彼の顔は、「俯く像」の表情によく似ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3357b/>

俯く像

2010年11月24日15時51分発行